

研究タイトル：英語でコミュニケーションをとるために



氏名：	成田智子 / NARITA Tomoko	E-mail：	narita@numazu.kosen-ac.jp
職名：	准教授	学位：	学士
所属学会・協会：	全国高等専門学校英語教育学会、NUFS ワークショップ、英語授業研究会		
キーワード：	CLT、アクティブラーニング、ペアワーク、グループワーク		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> 英語の学び直し 英会話 		

研究内容：

Can you communicate in English? 昨今、日本は世界でも最も人気のある国の一つで、多くの外国人が日本を訪れています。しかしわざわざ来てみると日本は観光客には不便なことが多くあるようで、英語でコミュニケーションを取ることが出来ないと考えている日本人が多い事にも驚いています。日本人はとてもまじめに英語学習に取り組んできていると思いますが、なぜこのような現状なのでしょう？これはまさに英語教師である私にとって解決すべき最大の問題なのです。

私は以前は自分が教えられてきた経験に基づいて、話題となった教授法の本を読んだりしながら授業スタイルに工夫をすることを繰り返してきました。しかしながら目覚ましい変化や効果を得ることなく悶々とした日々をおくっていました。そして次第に自己流の試行錯誤ではなく正統な最新の第二言語習得研究からより良い方法を実践したいと考えるようになり、研究論文を読んだりワークショップに参加して多くの教員と経験をシェアして授業改善を行っています。

これまでの日本の英語教育は「訳読方式」が主流の「読み書き」学習でした。英語を聴き、話し、使う学習が乏しかったために、「文法を勉強したので辞書を使えば英語は読めるし、少しは書ける」のですが、コミュニケーションの道具として使うことが出来ません。最近の研究で明らかになったことは、コミュニケーション活動が言語習得に非常に効果があるという事です。易しいインプットから入って、情報交換をしたり人と交流する中で自己を伝え人を理解しようとする経験を積み重ねると非常に効率よくその言語が使えるようになるのです。英語の授業は英語で行います。そして生徒同士も英語で活動します。英語を使ってコミュニケーションを取る相手はネイティブでなければいけないという考えは意外にも的外れで、むしろネイティブでない方が気楽に自由に英語を使うことが出来るという事もわかってきました。日本人の最も悪い癖は「間違った英語を話してはいけない」と考えてしまうこと。Enjoy making mistakes! の精神が良いのです。まず英語を使って間違いをたくさんして、どうしたら相手に伝わるか苦労しながら学習していく授業でより多くの英語好きを育てるべく、日々研究、実験を行っています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

教
養
科